

〔 特 集 〕

どう対応？ 集団生活での 子どもの“困った”行動

～発達障害かもしれない？～

本特集では、学校や保育施設、学童保育などで、「この子はどうしてこんな行動をとるのかな」「どうしたらこの行動をやめさせられるの？」「子どもたちの集団のなかにいるのがつらそうだけど、なぜなのかな？」「周囲を困らせるのは発達障害だからというけれど、そうなの？」と声上がる内容を取り上げました。

発達障害の子どもたちは、集中力や衝動性、こだわり、想像力のなさといった問題に加えて、感覚の問題をもつことも少なくありません。そのために大勢の子どもが同じ行動をしなければいけない場所では、集団に入れない、指示が理解できない、ほかの子どもと一緒に物事を開始できない/ペースにあわせられない、集団に入ると何かにつけほかの子どもとトラブルになる、といったことが起こることがあります。

しかし、そのような問題の原因の背景にあるのは、発達障害だけではありません。チャウシェスク政権下の子どもたちで知られるように、厳しい養育環境のもと逆境的体験をもつ子どもたちは、発達の遅れや注意欠如多動症、自閉スペクトラム症と似た症状を呈することが知られています。

この特集で紹介されている対応は、定型発達の子どもに対しても有用で、どの子どもにも役立つものだと思います。本特集がさまざまな視点から子どもたちの行動を考えるきっかけになれば幸いです。

(関西医科大学総合医療センター小児科／石崎優子)

